

下記の要請を行いました。

環境政策課は、4月23日、13時半。対応は、大浜浩志課長外2名。  
沖縄総合事務局は、4月25日、15時。対応は小野正博港湾空港指導官。  
港湾課は、4月25日、16時半。対応は、普天間信栄課長外3名。

回答は、大浜環境政策課長は、「事業者に調査するように伝える」  
小野指導官は、「アセス書の約束に従い、環境監視委員会に報告し、指導助言のもと進める」  
普天間港湾課長は、「調査をする。アセス書の約束に従い、環境監視委員会に報告し、指導助言のもと進める」、でした。

泡瀬干潟を守る連絡会は、小橋川共男共同代表、吉里伸副代表、前川盛治事務局長、屋良朝敏事務局次長、桑江直哉幹事が行いました。

2012年4月25日

沖縄総合事務局長 様 開発建設部長 様 港湾空港指導官 小野正博 様  
開発建設部・港湾計画課長 様

沖縄県知事 仲井真 弘多 様 土木建築部港湾課長 様  
沖縄県知事 仲井真 弘多 様 環境政策部・環境政策課長 様

泡瀬干潟を守る連絡会

共同代表 小橋川共男 漆谷克秀

連絡先 前川盛治（泡瀬干潟を守る連絡会・事務局長）

携帯:090-5476-6628

## フジイロハマグリの再発見を踏まえての 泡瀬干潟・浅海域の埋立工事の中止の要請

2012年4月8日(日)、ウミエラ館（館長：屋良朝敏）主催の「干潟観察会」で「フジイロハマグリ」の生貝を発見した。このフジイロハマグリは、「レッドデータおきなわ」で絶滅危惧類として記載されており、泡瀬干潟のみに生息しているといわれる、極めて貴重な貝であり、今回で3例目である。

このフジイロハマグリは、過去（2005年）にも泡瀬干潟で発見されており、私たち「泡瀬干潟を守る連絡会」、「泡瀬干潟生物多様性研究会」（山下博由会長）は、2005年12月14日に県知事や文化環境部長、環境政策課長にその保全を要請し、「日本ベントス学会」（向井宏会長）は、2005年10月に、県知事、沖縄市長、沖縄総合事務局長、沖縄担当大臣に「泡瀬干潟の生態系の保全に関する要望書」を提出した。しかし、事業者はその種を確認することもせず、事業を強行してきた。

泡瀬干潟・浅海域は、環境省が日本の重要湿地500に選定、ラムサール条約登録湿地の潜在候補地に選定するなどきわめて貴重な場所である。沖縄県も1998年「自然環境の保全に関する指針」で同海域を「評価ランク1」に選定した。

今回の発見にあたり、再度泡瀬干潟・浅海域の貴重さを再確認し、その保全を訴え、下記を要請する。

### 記

1. 事業者は、同海域の調査を徹底して行え。
2. 事業者は、2000年のアセス書に記載されている「新種・貴重種の保全」事項を遵守せよ。
3. 多くの絶滅危惧種が生息し、世界的にも貴重な泡瀬干潟・浅海域の埋立事業を中止せよ。



4月8日発見されたフジイロハマグリ  
ニライカナイゴウナも共生している。  
発見者：屋良朝敏



2005年に発見されたフジイロハマグリ  
発見者：山下博由、照屋清之介

### 要請添付資料

フジイロハマグリ（「改定・レッドデータおきなわ」絶滅危惧 類）  
「改定・レッドデータおきなわ」での記載（下線は引用者が記載）

和名： フジイロハマグリ                      分類： マルスダレガイ目マルスダレガイ科  
学名： *Callista erycina* (Linnaeus, 1758)                      カテゴリー： 絶滅危惧 類 (VU)  
環境省カテゴリー： 該当なし

形態： 殻長約6cm、卵楕円形。殻頂は前方に寄る。殻表には光沢があり、太い成長輪肋に覆われる。放射彩を持つ。内面後端は紫彩される。

分布の概要： 奄美以南に分布するとされているが、琉球列島における分布域は、沖縄島金武湾などの特定の地域に限られる。

生息地の条件： フジイロハマグリは、内湾域潮下帯の安定した砂底域を生息場所としている。

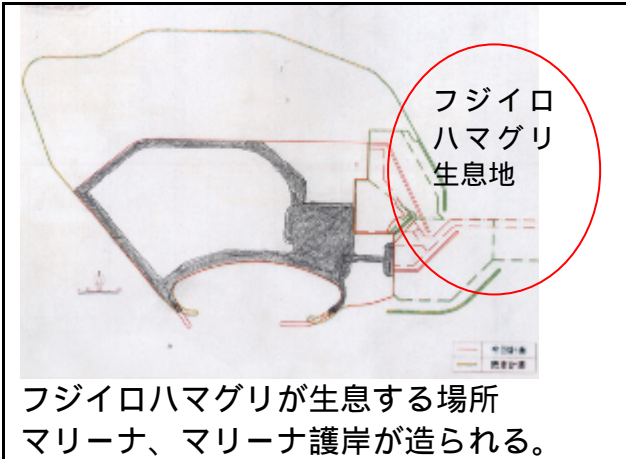
現在の生息状況： 沖縄県内におけるフジイロハマグリの生息確認地点は、金武湾湾口部（平安座島沖）および中城湾泡瀬干潟の2地域。泡瀬干潟では、照屋清之介氏により通信施設南岸沖の低潮帯砂底域から見出されている。

学術的意義・評価： フジイロハマグリの生息環境である内湾域潮下帯砂底域は、琉球列島においては限られた生物生息環境である。フジイロハマグリは、沖縄の海岸環境の多様性を認識するうえで重要な指標種である。また、沖縄島のフジイロハマグリ個体群は、隔離個体群として生物地理学的に重要。

生存に対する脅威： 泡瀬干潟におけるフジイロハマグリの生息域では、埋め立て工事がおこなわれている。金武湾の生息域では、大規模な浚渫が行われている。沖縄県内のフジイロハマグリの生息条件は、すべての生息地で急激に悪化しており、個体群の存続が危ぶまれる。

執筆者名：名和純

フジイロハマグリの生息地周辺での埋立工事予定

 <p>フジイロハマグリ生息地</p> <p>フジイロハマグリが生息する場所 マリーナ、マリーナ護岸が造られる。</p>	<p>左は、現在の護岸（グレーの色）と将来埋立工事が予定されている区画（赤い線で囲まれた場所）の概略図です。</p> <p>今回フジイロハマグリが発見された場所は、マリーナ、マリーナの防波堤が計画されている場所付近であり、この工事が行われれば、フジイロハマグリは「絶滅危惧種」ではなく、それこそ「絶滅種」になる恐れがある。</p>
---	---

## 2000年のアセス書での記載

**沖縄県知事意見：**工事中に貴重な動植物が確認された際は、関係機関に報告するとともに、適切な措置を講じること。

**事業者見解：**工事中に天然記念物指定種や「レッドデータブック」、「レッドリスト」等の掲載種、その他貴重種・重要種に相当する種で、環境影響評価書に記載されている動植物種以外の種の存在が埋立てに関する工事の施工区域内若しくはその近傍で確認された場合には、関係機関へ報告するとともに十分調整を図り、その保全に必要な措置を適切に講じます。